クロマメ（ニホンイノシシ）

2006 年 11 月に静岡県から来園しました。餌をたくみに探したり、大きな体で迫力のある穴掘りをしたり、かわいらしい姿でのんびりと寝そべったり、様々なイノシシの姿を見せてくれました。

大好きなブラッシング中！

ハキリアリの女王

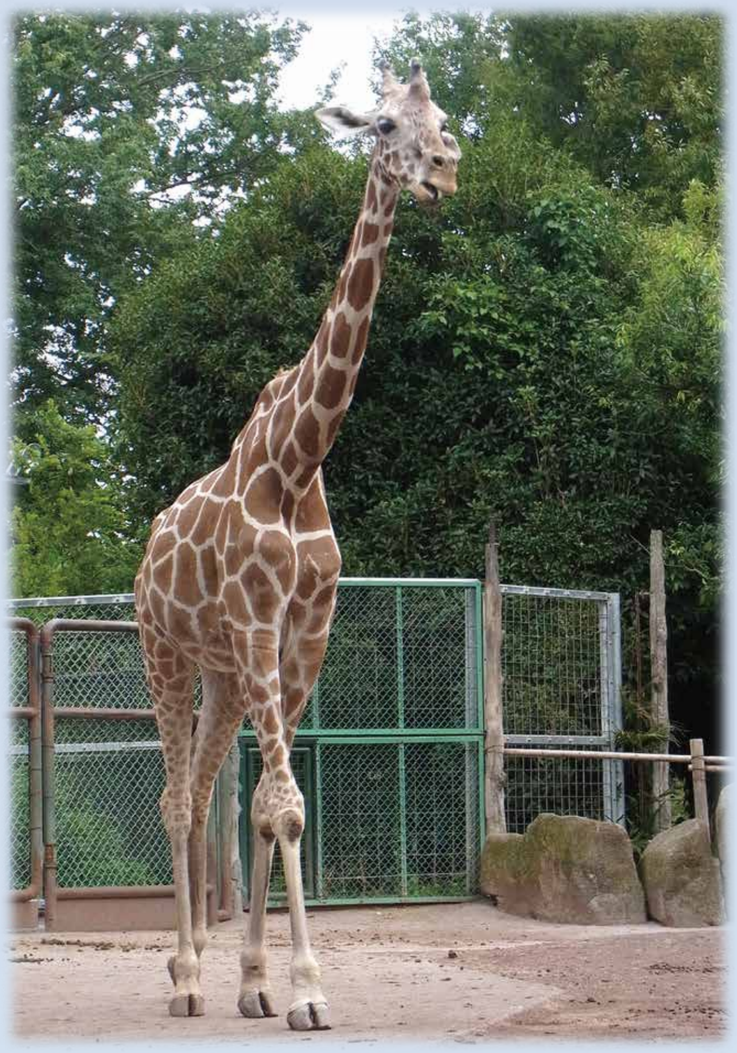
2014 年 12 月にペルーから来園し、6 年以上生きました。多摩動物公園で飼育したハキリアリとしては最も長く生き、多数の働きアリを産む女王でした。
（生き残っている働きアリによる展示を現在も継続しています）

ニシチ（コアラ）

多摩では８年ぶりに生まれ、大きな期待を背負ったコアラでした。２月７日生まれなので「ニシチ」という名前になりました。好奇心旺盛、観客に近いところでユーカリをたくさん食べてよく動くため人気者でした。

イエロー（ヒマラヤタール）

多摩動物公園に初めてやってきたタールの最後の生き残りで、多摩では最高齢の 21 才でした。飼育係の間では、「イエローがいると群れが落ち着く」と言われるほど、貫禄のある頼もしい存在でした。



ノゾミ（キリン）

歴代の種オスからとても好かれていました。
また、キリンの子ども達はみんな、母親だけではなく、ノゾミからも乳をもらって育ちました。長年にわたりサバンナのお母さん役として活躍してくれました。

タケ（ダチョウ）

2000年6月にオスかメスかまだ分からない小さな体でサバンナに来園しましたが、
その後グングン大きくなり、サバンナで
一番危険な動物とまで言われるようになりました。ホーホーと独特な美声も魅力的でした。

サラビ（ライオン）

群れを引退後は穏やかに過ごし、多摩のライオンの長寿記録を更新しました。

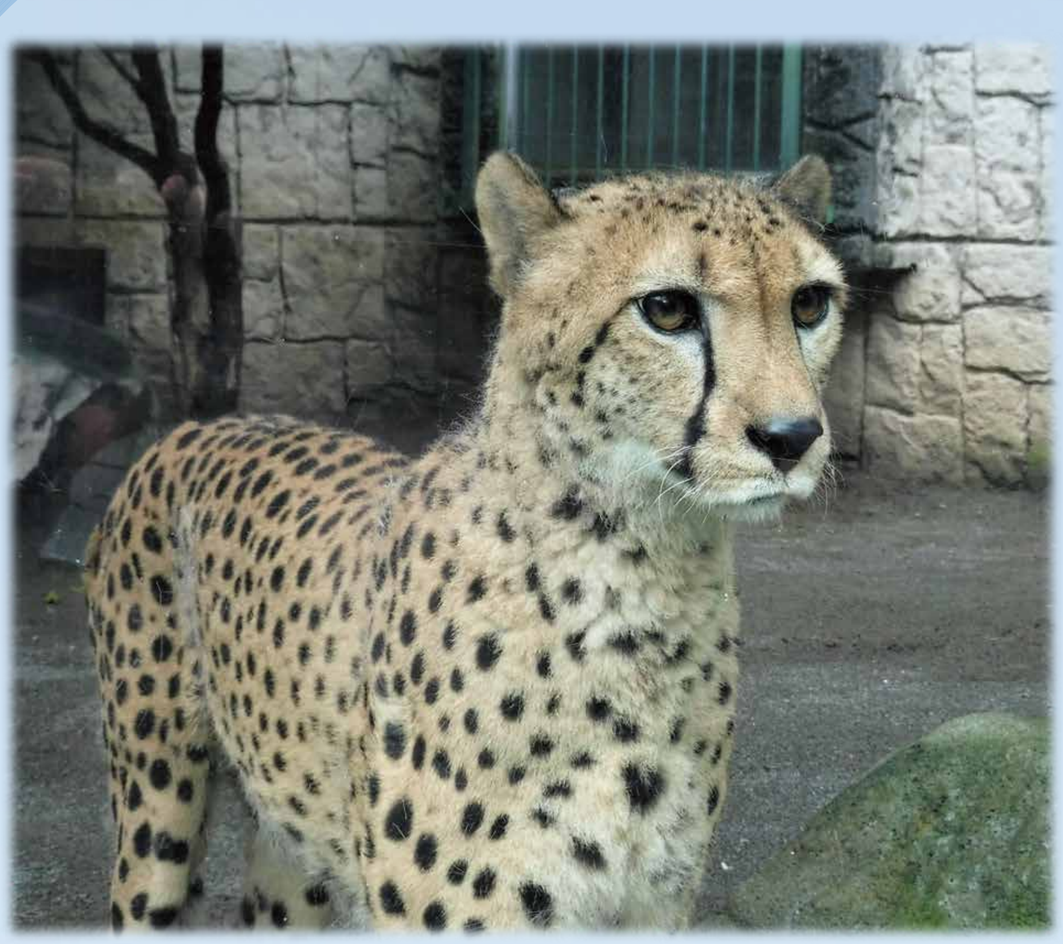
レボ（ライオン）

以前の放飼場では発情の有無に関わらず
2頭寄り添って過ごす姿が印象的でした。

ミサ（ライオン）

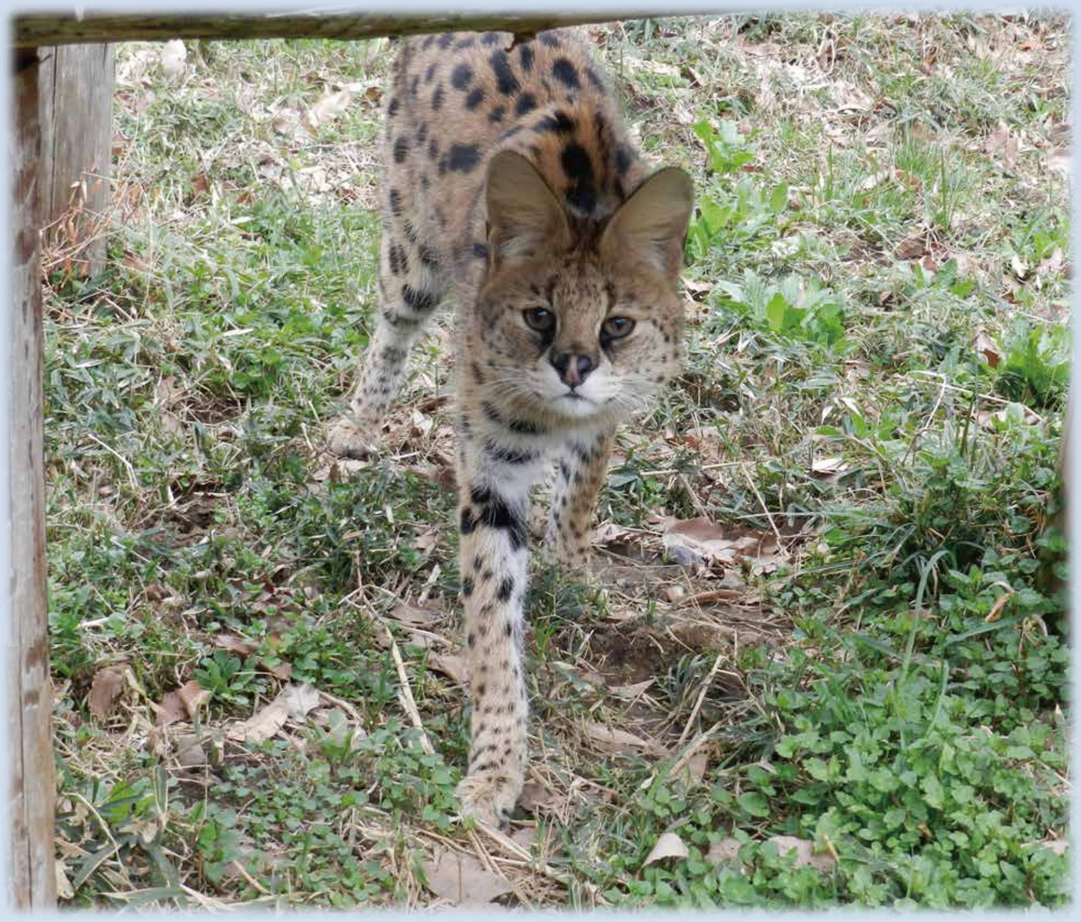
ニーム（チーター）

手を焼くことが少なく、聞き分けが良いチーターでした。



カイ（チーター）

多摩のチーターの繁殖に大いに貢献してくれました。子どもたちは様々な動物園などに行きそれぞれで活躍してくれています。



コウ（サーバル）

サーバルジャンプではバーを掴んで離さないなど面白い一面がある個体でした。ケガをしてからは非展示個体でしたが、担当者を和ませてくれる存在でした。

ポール（サーバル）

紳士的なオスで様々なメスから人気があり、12 年ぶりの繁殖に貢献してくれました。

メゾン（ニホンザル）

メゾンは，2020 年 7 月の検査でほぼ
両眼とも見えないとわかりましたが、
その後も群れの仲間たちとサル山で
一緒に暮らしました。今年の5月からは、
餌場までたどり着けなくなったため、
近寄って煮イモなどの好物を体に当たる
よう投げると、手探りで食べていました。

モンブラン（シャモア）

先端がカーブしている角、つぶらな瞳、
ツートーンカラーの顔、その美しい姿に
多くの来園者が魅了されたことでしょう。
放飼場斜面のてっぺんに立つ様子は、
凛としていてとてもかっこよかったです。